

## 第 38 回電気通信普及財団賞 表彰者コメント ～テレコム人文学・社会科学賞～

<順不同>

※括弧内の所属は当論文賞受賞時のものです。

### 稲増 一憲 氏（関西学院大学社会学部 教授）

#### テレコム人文学・社会科学賞 入賞 「マスメディアとは何か―「影響力」の正体」



この度は、名誉ある「第 38 回電気通信普及財団賞テレコム人文学・社会科学賞 入賞」を賜りまして、まことに光栄に存じます。

私が研究をスタートした約 20 年前にも、マスメディアに対する批判は多く存在していましたが、一方で、インターネットという「新しいメディア」がそれにとって代わることで、問題が解決されるという希望も同時に語られていたと思います。しかし、マスメディアへの批判はさらに激化するとともに、インターネットに対する希望が急速に萎む中で、私たちは「どんなメディアも信じられない」という袋小路に迷い込みつつあるように思います。

「マスゴミ」という言葉が氾濫する現代において、「マスメディアを擁護している」と読める主張を展開することは、勇気の要ることでした。しかし、メディア不信の袋小路から抜け出すためには、我々がメディアに対するステレオタイプやマスメディア VS インターネットという二項対立から脱却した上で、改めてより良い情報環境とはどのようなものかを考え直す必要があると考え、本書を執筆いたしました。この目的がどこまで実現できたのかについては、2022 年 7 月の公刊以来、自問を繰り返しておりますが、この度、栄えある賞をもって評価していただきましたことは、さらに前へと進む上で、大いに励みとなります。

今後も、より良い情報環境の構築に資する研究を行えるよう、努力を続けていきたいと思っております。本書の執筆・公刊の過程でお世話になりましたみなさま、本書で取りあげた先行研究を行って下さったみなさま、まことにありがとうございました。最後になりましたが、電気通信普及財団のますますのご発展を祈念いたします。

### 善如 悠介 氏（神戸大学大学院経営学研究科 教授）

### 角田 侑史 氏（神戸大学大学院経営学研究科 准教授）

#### テレコム人文学・社会科学賞 入賞

#### 「Platform Information Transparency and Effects on Third-Party Suppliers and Offline Retailers」



この度は、名誉と伝統ある「第 38 回電気通信普及財団賞テレコム人文学・社会科学賞 入賞」を受賞することができ、心より光栄に存じます。

本論文の研究テーマは、Amazon のようなプラットフォーム企業によるビッグデータの利用に関連しています。具体的には、ビッグデータを用いて市場の需要予測を行い、それを当該プラットフォームに参加する売手に共有するような行動を分析しています。さらに、そのような行動がプラットフォーム内部のみならず、プラットフォーム外の既存の流通システムを含むサプライチェーン全体に及ぼしうる広範な影響についても種々の

検討を行いました。

過去の受賞作の大半が骨太の著書であったため、事前の期待は正直それほど高くはありませんでした。そんな中、我々の学術論文を評価して下さった審査員の先生方ならびに電気通信普及財団の皆様にあらためて深くお礼申し上げます。これを機に、今後ますます多くの学術的貢献が日本の研究者によって生み出され、それらが国際的に発信されることと思っております。

## 佐々木 智弘 氏（防衛大学校 教授）

### テレコム人文学・社会科学賞 奨励賞

#### 「現代中国の官僚組織行動 電気通信事業改革の政治過程」



この度は、「第 38 回電気通信普及財団賞テレコム人文学・社会科学賞 奨励賞」を賜り、大変光栄に思っております。電気通信普及財団の関係者、選考委員の先生方に心より感謝申し上げます。またこれまでご指導いただいた先生方、JETRO アジア経済研究所、防衛大学校、法律文化社、助成いただいた防衛大学校学術・教育振興会に心よりお礼申し上げます。

中国の電気通信事業は 1949 年の建国から中国電信 China Telecom が独占してきましたが、1994 年に中国聯通 China Unicom の設立で、独占が打破され、その後携帯電話事業での競争導入、3G での業界再編と改革が進められました。中国の政策決定では、共産党指導部によるトップダウンのイメージがもたれますが、電気通信事業改革では、改革を進めたい党指導者（政治家）と既得権益を守りたい官僚組織（中央官庁）のあいだに利害対立が見られ、本書では改革の政治過程を分析し、官僚組織が影響力を行使し、党指導者の方針を形骸化し、自らの利益を守った行動メカニズムを明らかにしました。

日本やイギリスの民営化同様に、中国の電気通信事業改革も政治分析の事例になるのではと選びはしたものの、携帯電話の通話の仕組みすら分かっておらず、子供向け電話の仕組みの類いの本を勉強するところから研究がスタートしたことが思い出されます。

今回の受賞は、私にとって大きな自信となります。本書の成果を活かし、今後は現在世界的に注目される中国の科学技術のデュアルユースをめぐる政治過程の研究を進めていきたいと思っております。どうもありがとうございました。

## 辻 大介 氏（大阪大学大学院人間科学研究科 准教授）

### テレコム人文学・社会科学賞 奨励賞

#### 「ネット社会と民主主義—「分断」問題を調査データから検証する」



この度は、「第 38 回電気通信普及財団賞テレコム人文学・社会科学賞 奨励賞」の栄誉を賜り、誠にありがとうございます。また、本書のもととなった調査研究も、その一部は貴財団より研究助成をいただき、実施したものです。あらためて御礼を申し上げます。

今回の受賞作は、日本の市民社会における民主主義的基盤にインターネットが及ぼす影響を、総勢 11 名の社会学者・社会心理学者が多角的に分析した成果をまとめた論文集です。安倍政権下では、近年のアメリカと同様に、右派（保守）と左派（リベラル）の「分断」が盛んに言挙げされました。そのような政治的分極化をネット利用が促している形跡は、私たちの調査データの分析結果からも確認されましたが、それは先行研究の多くが想定する情報の選択的接触・回避によるものではありませんでした。

他にも数多くの知見を得ることができましたが、同時にまた新たな研究課題も多く浮かび上がってきました。そのため現在も、この後継にあたる大規模調査プロジェクトに共同研究メンバーと取り組んでいます。これを機に、問題解明に向けてより一層励んでまいりたいと存じます。

## 櫻井 美穂子 氏（国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 准教授）

### テレコム人文学・社会科学賞 奨励賞

#### 「ソシオテクニカル経営：人に優しいDXを目指して」



この度は、「第 38 回電気通信普及財団賞テレコム人文学・社会科学賞 奨励賞」に選んでいただき、ありがとうございます。

この本は、経営情報システムの分野で背骨的な概念フレームワークとなっている「ソシオテクニカルシステム」の考え方をを用いて、昨今のデジタル・トランスフォーメーションの捉え方を提示したものです。

ソシオテクニカルシステム概念は、ITシステムを単なる効率化の道具としてではなく、人々の幸せや多様なニーズをサポートするものとして捉える考え方です。この考え方を企業や行政のマネジメントに適応すると、社会システムと技術システムの統合設計こそがデジタル・トランスフォーメーションを成功に導く鍵であることが分かります。

企業における実践例や自治体を対象としたヒアリング調査、一般の方を対象としたオンライン調査から様々な実証データを用いながら、社会システムと技術システムの統合設計に必要なデザイン原則を5つに整理しました。

デジタル・トランスフォーメーションを実践されている多くの現場の方に参考にしていただければ幸いです。